(3)海外留学生について

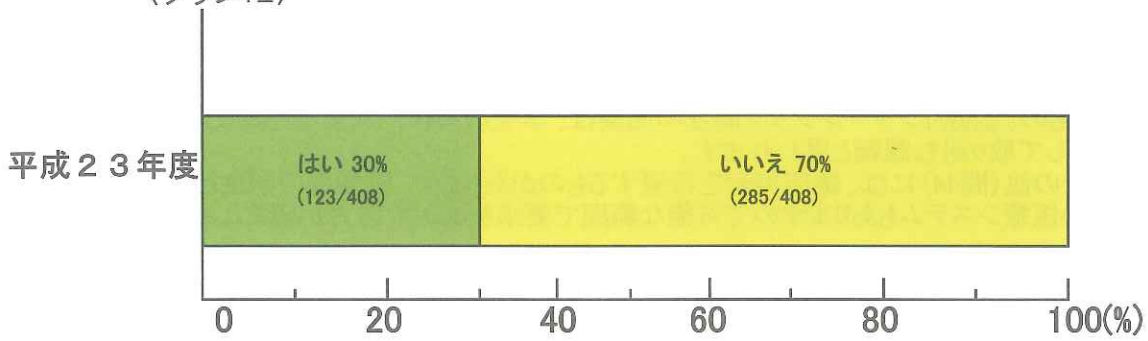
問42. 海外への留学を希望しますか。

〔1〕現状

海外留学を希望する学生は30%となっています。

ところで、留学を希望しない「いいえ」と回答した学生が70%いますが、そのうちの56%は経済的、時間的なものを理由としています(問50)。複数選択で回答している可能性もありますが、これらの学生は潜在的な留学希望者と捉えることができ、これらの学生を加えると、海外留学希望者は非常に多いといえます。

〈グラフ42〉



問43. どのような形の留学を希望しますか。

〔1〕現状

希望する留学の研修プログラムとしては、2～4週間程度の語学研修が60%と圧倒的多数を占めています。これまでの学習成果を発展させ、外国語の一層の習得、外国人と会話ができるようになりたいなどの希望を反映しているように思います。次いで6カ月ー1年間程度の専門科目も受講できるもの、国際インターンシップ制度の順となっています。

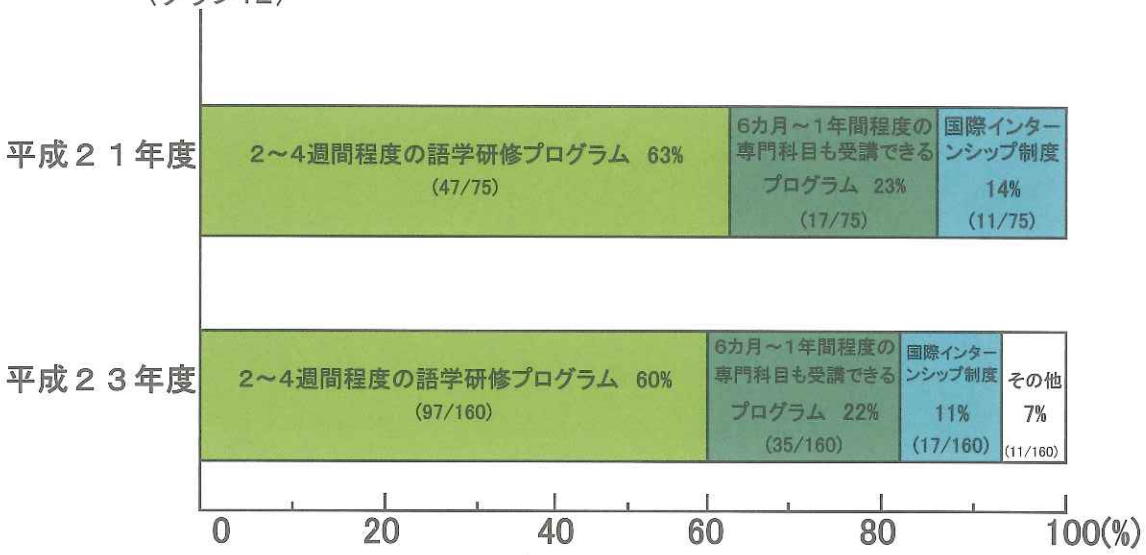
前回の調査と比較して、希望する各研修プログラムの割合はほぼ同じ傾向ですが、国際インターンシップ制度希望者の割合が少し低下しています。その他(問44)として、自由、臨床実習などがあります。

〔2〕課題(問題点)

何よりも体験ともいえますが、学生の経済的負担を考えれば、海外語学研修と同程度のプログラムをもつ教育システムの開発、研究が期待されます。6カ月ー1年間程度の専門科目も受講できるもの、国際インターンシップ制度の充実は、学生の具体的な要望を踏まえ、学部や大学全体として取り組む課題と思われます。

その他(問44)には、臨床実習を希望するものがあります。医学部の学生と思われますが、各国の医療システムもありますので可能な範囲で要求を満たす努力が望まれます。

〈グラフ42〉



問44. 前の質問で「4. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

〔
・希望しない
・自由
・臨床実習
〕

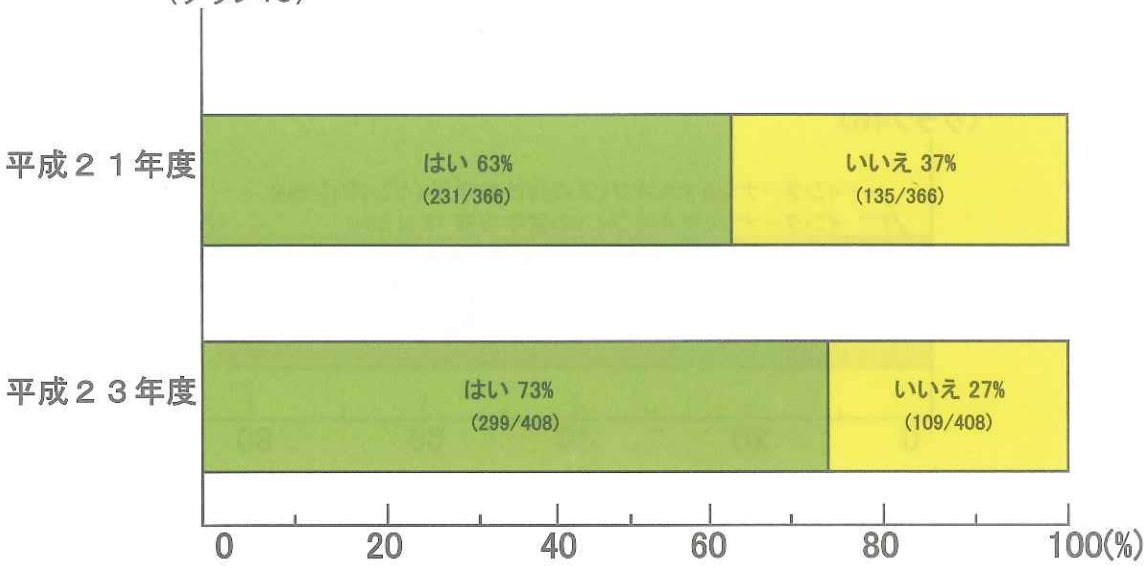
問45. 本学には海外の大学の交流協定校への派遣留学生制度（短期語学研修、派遣交換留学、インターンシップ等）がありますが、知っていますか。

〔1〕現状

交流協定校への派遣留学制度を知っている学生は73％です。

前回の調査と比較して、この制度を知っている学生が10％増加しています。広報活動の成果といえますが、少なくとも90％以上の学生に浸透するように一層の努力が望まれます。

〈グラフ45〉



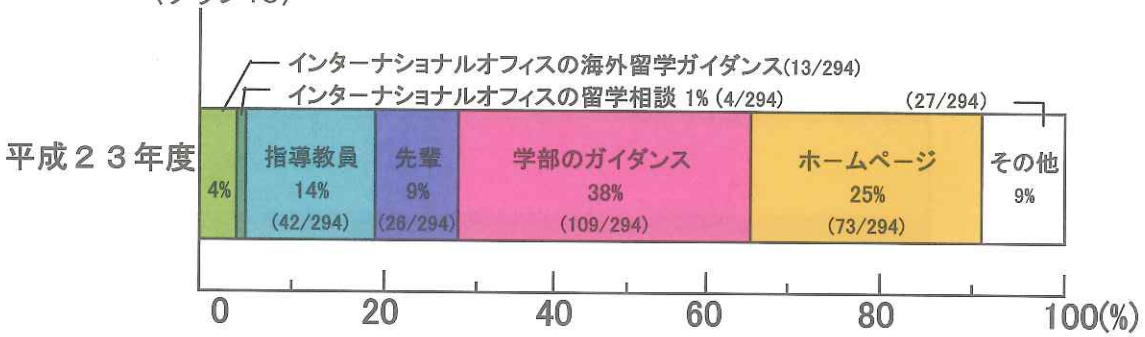
問46. どこで知りましたか。

〔1〕現状

留学制度の情報は、学部のガイダンスとホームページを通して得ている学生がそれぞれ38%と25%(総計63%)います。大学の組織的な広報活動が浸透してきているものといえます。大学の掲示板を通じて知った学生も少なからずいることは、その他の内容からも分かります(問47)指導教員や先輩を通じて情報を得ている学生もそれぞれ14%、9%いますので、個人レベルでの広報活動の重要さも示しています。そのことは、その他の内容(問47)からも見ることが出来ます。

一方、インターナショナルオフィスの海外留学ガイダンスや留学相談した学生は4%です。少ないともいえますが、積極的に海外留学を希望し、相談した学生の実態を反映していると思われます。

〈グラフ46〉



問47. 問46の質問で「7. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

- 掲示板　11件
- 友人から聞いた　6件
- 大学からのメール　4件
- 友人がその留学制度で留学したため 2件

問48. 今後、この派遣留学制度を利用して留学したいですか。

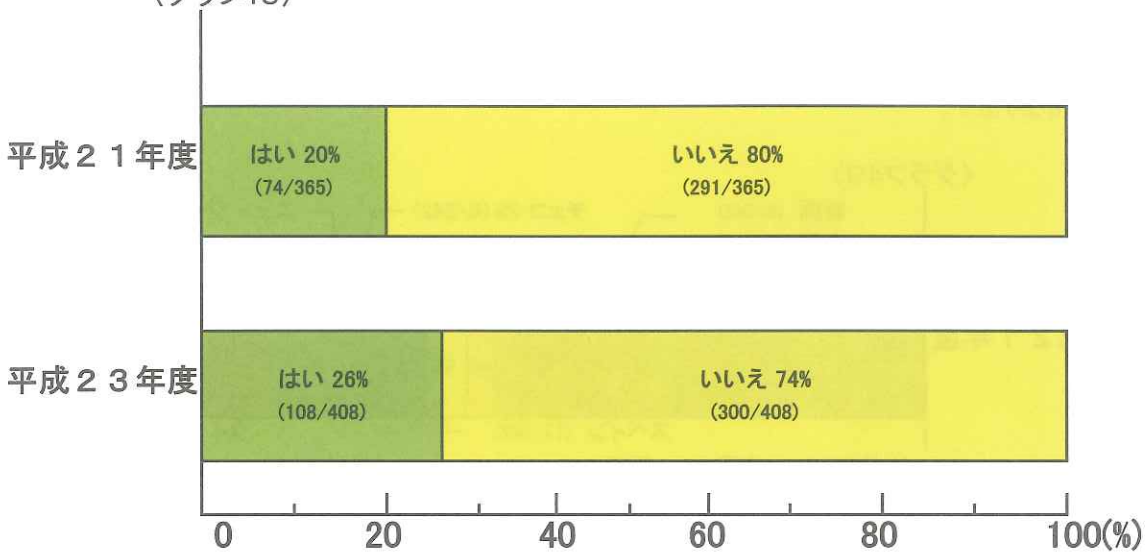
〔1〕現状

派遣留学制度を利用した留学希望者は26％です。

前回の調査と比較して、この制度を利用した留学希望者は6％増加しており、派遣留学制度の充実や広報活動の成果といえます。

一方、いいえの回答が74％います。現在の派遣留学制度が必ずしも多くの学生の要求に見合った状況でないことが示唆されます。全学あるいは各学部での留学制度の内容の一層の充実と、インターナショナルオフィスによる支援体制の強化が望まれます。

〈グラフ48〉



問49. 本学が学術交流協定を結んでいる海外の大学（19カ国・地域、65大学・機関）のうち、どこの国へ行きたいですか、次のうちから一つ選んで答えてください。

〔1〕現状

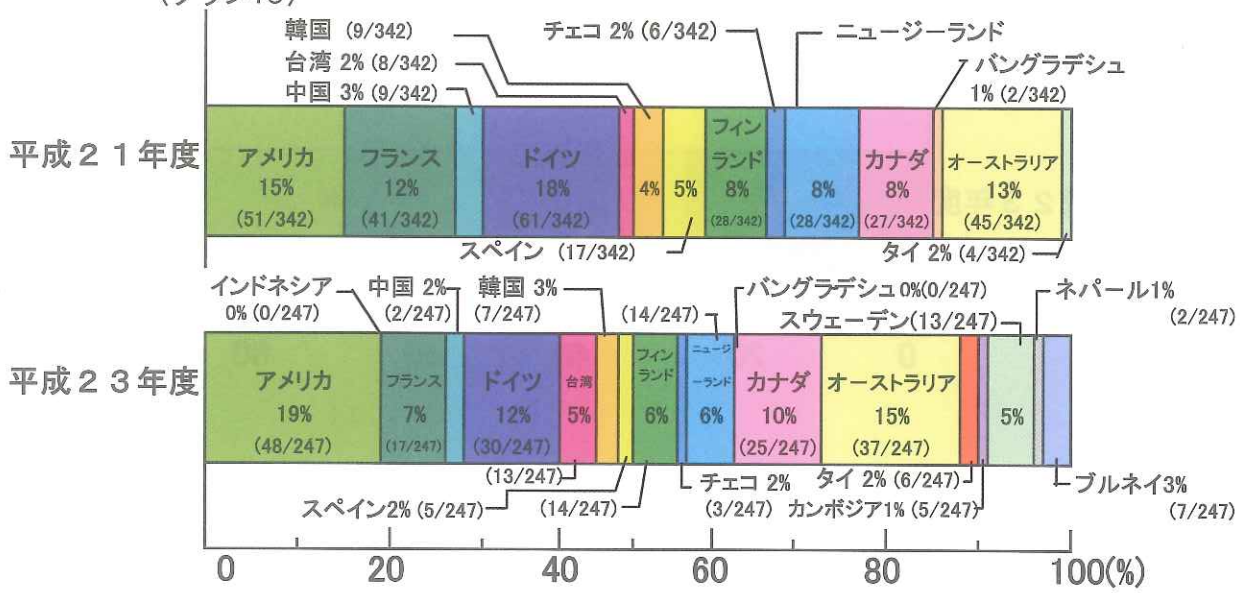
学術交流協定を結んでいる大学のうち、留学希望国はアメリカ19%が最も多く、次いでオーストラリア、ドイツ、カナダ、フランス、ニュージーランドの順となっています。

前回の調査と比較して、学術交流協定を結んでいる国がスウェーデン、ブルネイ、ネパール、カンボジア、インドネシアが新たに加わり、それらの国への希望者はインドネシアを除き1-5%います。全体的には、アメリカ4%、台湾3%、オーストラリア、カナダが各2%増加しています。

一方、ヨーロッパ圏内のドイツ、フランス希望が比較的大きく低下し、フィンランド、ニュージーランドも少し低下していますが、アンケートからはその背景を伺うことは出来ません。バングラデシュは0%となっています。

海外渡航先ではヨーロッパが増加していますが（問36）、交流協定校を通じた留学希望国とは少し異なります。

〈グラフ49〉



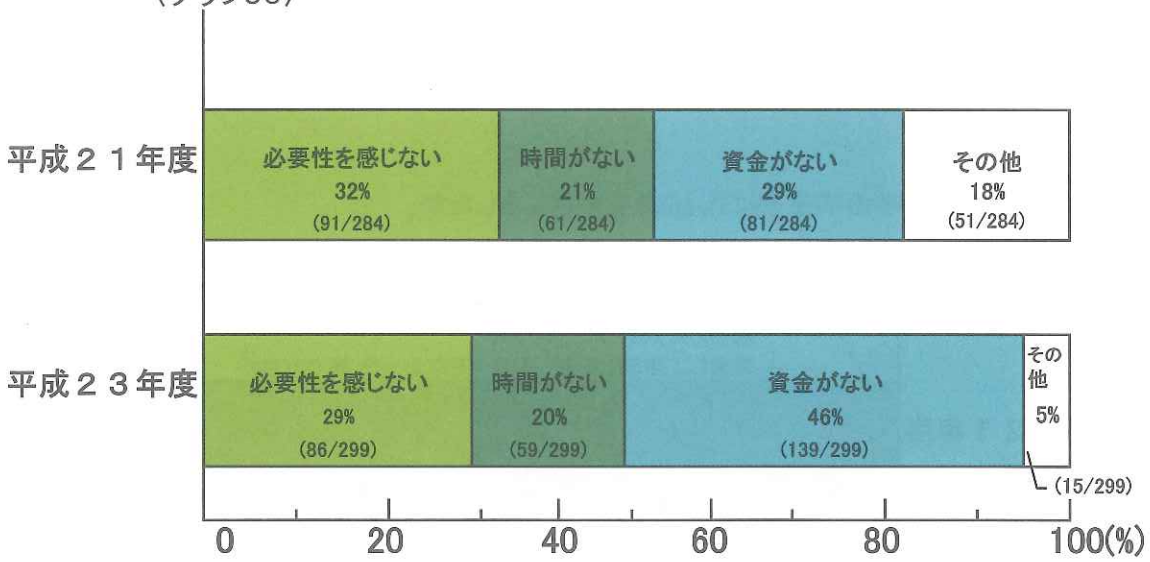
問50. 海外留学をしたくない理由は。

〔1〕現状
海外留学をしたくない理由としては、「資金がない」46%が最も多く、次いで「必要性を感じない」29%、「時間がない」20%、「その他5%」の順となっています。

前回の調査と比較して、「資金がない」が17%も増加し、前回の調査でトップだった「必要性を感じない」を大きく上回っています。学生の経済状況の悪化が背景にあると思われます。このような学生は潜在的には海外留学の希望は持っているといえます。一方、必要性を感じない学生が僅かに低下し、時間がないは前回とほぼ同じで、その他が13%低下しています。

〔2〕課題(問題点)
海外留学をしたくない学生のうち、経済的、時間的な問題が解決すれば、海外留学を考える学生が60%を越えます。大学には、これらの経済的、時間的な問題解決に向けた一層の努力が望まれます。
一方、必要性を感じない学生29%をどう捉えるかは今後の検討課題ですが、単なる海外渡航に比較して高いモチベーションが必要ですので、大学にはそれらを育むための一層の取り組みが期待されます。
その他の内容として(問51)、制度のない学部の指摘もあり、学部としての努力を要すると思います。また、いわゆる語学力や治安への不安も記載されていますが、実践的な語学教育、体験交流、外国の治安情報など細かな情報提供を通じての克服が期待されます。

〈グラフ50〉



問51. 問50の質問で「4. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

・法学部では斡旋されていないから 。
・必要性を感じず、時間もなく資金もないことに加え、海外の治安に強烈な不安を感じるため。
・語学力が十分でないため、コミュニケーションが取れないと思うから。
・英語がしゃべれないので不安だから。
・自分に自信がなく、興味はあるが踏み出せない。
・勇気がでない・ 興味がない・ あまり海外留学に興味を抱いていないから。